

ICTに関する取組

地域連携ICカードの導入 2022年3月

JR東日本のSuica機能を搭載した地域連携ICカード「AOPASS」のサービスを開始。運賃の割引に使用できる交通ポイントや、休日一日券、福祉乗車にも対応する。

※「Suica」は東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。



Googleマップへのリアル情報の反映 2022年12月

2018年に行ったGoogleマップへのバス停の位置情報時刻表掲載に加え、GTFS-RT（リアルタイム）を活用した運行状況の反映。



バスの現在地がスマホでわかる バスロケーションシステムの導入 2023年3月

バスロケーションシステムはマップ上でバスの現在地を確認できるスマホ・PC用のサービス。GPS搭載機器の組立等の作業を地域の小学生と協同行った。



検索情報を保存できるリアルタイム時刻表の導入 2033年3月

GTFS-RT（リアルタイム）を活用し「運行の遅れ情報」もリアルタイムで反映する「あおりマイ時刻表」。検索したバス停情報を保存できる便利機能も搭載する。



INNOVATION for smile

今後は導入した各種サービスの利便性をより多くの方が享受できるように出前講座等のデジタルデバイス対策の取組を進めていきたい。

一方、その翌年にはGPSを利用したバスの現在地がスマホでわかる「バスロケーションシステム」を導入した。豪雪地域特有のバスの到着時刻の遅れなどの運行状況をリアルタイムで確認できるシステムとして、導入初年の12月から3月までの冬期アクセス数は約63万件にのぼり（年間利用者延べ590万人）多くの方に利用されている。

また、その翌年にはGPSを利用したバスの現在地がスマホでわかる「バスロケーションシステム」を導入した。豪雪地域特有のバスの到着時刻の遅れなどの運行状況をリアルタイムで確認できるシステムとして、導入初年の12月から3月までの冬期アクセス数は約63万件にのぼり（年間利用者延べ590万人）多くの方に利用されている。

元々、地域住民からの要望が高かった交通系ICカードへの対応は導入後1年で約7割の方に利用され（福祉乗車を除く）、市内外の多くの利用者から好評をいただいている。

青森市企業局交通部は地域連携ICカード「AOPASS」をはじめ、利用者の利便性向上を図るためICTに関する各種の取組を推進してきた。

ICTの利便性を みんなに伝えたい！

推進1 デジタルサイネージの設置

スマホ、パソコン等の通信機器を持たない利用者や、各種ICTに関する時刻表サービスを知らない観光客等にも運行情報を知らせることができる。（市内3か所に設置 2023.4.1現在）



推進2 実車でのICカード体験

ICカード「AOPASS」を用いた乗車体験。人が使用しているのを見たことはあるが、体験するのは初。小銭の用意も整理券も不要で乗り降りスムーズと好評価。



推進3 新サービスの使い方講座

町会の方々をお招きして「バスロケーションシステム」「あおりマイ時刻表」の使用方法について講座を実施。